

平成20年5月8日

報道機関 各位

東北大学大学院薬学研究科

外来高血圧診療における家庭血圧使用により医療費が削減される可能性

東北大学大学院薬学研究科の今井潤教授らの研究グループは、長期的な予後予測モデルを作成し、外来高血圧診療に家庭血圧を導入することによる医療費削減効果を明らかにしましたのでお知らせいたします。なお、本研究結果は、国際高血圧学会誌 Journal of Hypertension 4月号に掲載されました。

本研究は、外来血圧が高血圧域( $\geq 140/90$ mmHg)であると仮定した外来高血圧患者 1000 人が対象です。

この対象者の長期的な健康状態を予測し、外来血圧による治療を行った場合と家庭血圧による治療を行った場合それぞれの 5 年間にかかる医療費を算出・比較した結果、家庭血圧により高血圧の診断・治療を行うことで、5 年間で 1000 人あたり約 1 億 8000 万円の医療費削減効果が推定されました。

従って、本邦の外来高血圧診療への家庭血圧導入は、我が国の国民医療費削減の面からも推奨されるべきことが示唆されました。

お問い合わせ先

東北大学大学院薬学研究科医薬開発構想寄附講座

准教授 大久保 孝義

Tel 022-717-8590 / Fax 022-717-8591